

誰もがつながりをもって生きていける社会へ



難民の現状

自国にいと迫害を受ける恐れがあり、他国へ逃れてきた人々は、避難先で難民認定を受ける必要があります。日本では認定を受けるまで、相当の時間を要する上、必ずしも認定を受けられるわけではありません。そのため、日本での生活を安定させることができません。身寄りが無い場合は、困窮して路上生活を余儀なくされることもあります。先の見えない不安な生活に生きていく活力を失ってしまう人もおり、その人らしさを回復し、自立するまでの支援の必要性を感じていました。

自立のための場づくり

当団体は、難民の安心できる場所として日本最大級の難民シェルターを運営し、2021年度は20名の難民を受け入れました。

衣食住の提供に加えて、カウンセリングや農作業、日本語学習など、疲弊した難民が通常の生活を取り戻せるよう回復を促し、生きがいを持って自立していくことを目指しました。

難民自らによる発信

当団体の取組における特徴として、**難民が主体的に現状を発信**していくことが挙げられます。難民をモデルに起用した啓発ポスターは鎌倉市内の公立の全小中学校に配布され、校内掲示してもらうなど、積極的に当事者の課題や認識を共有する働きかけを

行っています。当事者の声を聞ける講演会には、2,000人超の参加がありました。SNSでの配信も行われています。

地域のイベントに出展

地域の人々が難民と出会い、現状に興味を持つきっかけを作るべく、地域に開かれたセンターを目指しています。「なんみんカフェ」では食を通じて難民の存在を身近に感じてもらうことができました。また、鎌倉市の地域通貨「クルッポ」を使うことができる**地域のイベントに出展**、この取組はクルッポアワード2021（SDGs部門）を受賞しました。

地域での居場所や役割を持つことは生きがい、目標を持つことにつながっています。また、活動を通じて、地域の人が食糧等の寄付をするなど、難民への理解、支援が広がっています。

NPO 法人アルペなんみんセンター

(神奈川県鎌倉市)

事業名 難民のエンパワメントと社会参画を通じた回復から自立までの支援事業

URL <https://arrupe-refugee.jp/>